

■ 3 ■ 羽曳野市の景観特性

羽曳野市は、古代、奈良盆地や大阪平野に本拠を置く支配者の重要な勢力基盤であるとともに、大和と難波を結び大陸文化を伝える官道上に位置する政治・文化・経済・交通の要衝でした。特に、巨大古墳群の集積する古市古墳群は、羽曳野市域が古代のわが国の国家形成の重要な地域のひとつであったことを物語っています。また、南北朝から室町・戦国の各時代を経て江戸初期の元和年間にかけて、戦略上の要地であったため、南北朝の動乱や大坂夏の陣などの度重なる戦の舞台となってきました。さらに、古代官道は、中世には伊勢街道の一部として存続し、近世には起点を堺大道筋（紀州街道）との交点とした竹内街道として本市域で東高野街道と交差するなど、古くから都や大都市を結ぶ交通の要衝としても展開してきました。そして、近代以降は大都市大阪の近郊都市として、緑豊かで良好な住宅市街地が形成されてきました。

このように、羽曳野市は、わが国の歴史の中心をなしていた大和地方や大阪、堺などに囲まれた政治・経済・交通の要衝として、わが国の歴史を語る上で欠くことのできない数多くの歴史の舞台となってきた地域であり、それ故に、数多くの歴史資源が残されている地域でもあります。また、交通の要衝であり続けたことにより、古くは遣隋使の使節や留学僧が、そして、近世においては松尾芭蕉や吉田松陰をはじめとした多くの文化人等が往来するなかで、「人」や「物」、「文化」（情報）が集積し、個性豊かな文化が育まれてきた地域であるといえます。

一方では、歴史的には流通機能を有し、現在は人々の生活に潤いを与えるレクリエーションの場となっている大河川の石川、また、山麓部がブドウ畑として利用される金剛山系の山並みや豊かな自然環境を活かした良好な住宅地として利用される羽曳野丘陵など、市域の豊かな自然資源を生業・生産・生活の場として巧みに利用し、良好な生活環境を築き上げてきた地域でもあります。

そして、これらの歴史的な資源や自然的な資源、それらを巧みに利用して形成されてきた都市的な資源は、現在の羽曳野市の景観資源となり、羽曳野市の景観を特徴づけるものとなっています。

【 羽曳野市の景観特性 】

わが国の歴史を語る上で欠くことのできない重要な歴史環境と
金剛山系の山並みや石川などの豊かな自然環境をベースとして、
それらを人々の生活や都市的活動に巧みに取り入れ、育んできた景観



このような羽曳野市の景観は、「歴史・文化」の特徴や景観資源を主体とする「歴史的景観」、「自然」の特徴や景観資源を主体とする「自然的景観」、「都市・市街地」の特徴や景観資源を主体とする「市街地景観」の3つの景観種別のもとに、次の8つの景観特性として整理することができます。

景観種別	景観特性	イメージ
歴史的景観	① 大規模な古墳のある景観	 
	② 旧街道や旧集落地の歴史的な趣のある景観	 
自然的景観	③ ブドウ畑や水田による広がりのある農地景観	 
	④ 景観の骨格となる石川や二上山地等の緑豊かな景観	 
市街地景観	⑤ ベッドタウンとしての緑豊かな住宅市街地の景観	 
	⑥ 景観の拠点となる駅前や近隣商業地の賑わい景観	 
	⑦ 広がりのある眺望や緑の連なりが作りだす変化に富んだ道路景観	 
	⑧ 豊かな自然に囲まれた学術・文化施設の景観	 

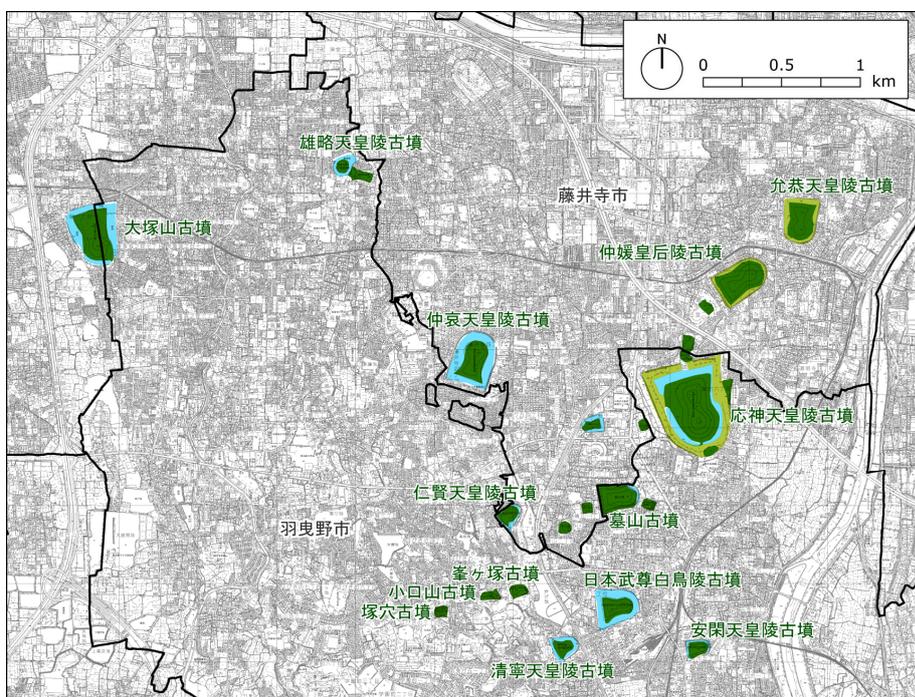
① 大規模な古墳のある景観

【歴史的景観】

a. 景観の特徴

本市及び隣接する藤井寺市にまたがる古墳群が古市古墳群です。この古墳群は、東西4km、南北4kmの範囲に広がり、羽曳野市内には、我が国第2位の規模を誇る応神天皇陵古墳(墳丘長425m)をはじめ、墓山古墳、日本武尊白鳥陵古墳といった墳長200mを越える大規模な古墳も存在します。

これら古墳群は、古墳自体が水面の広がりや樹林による独特の歴史的な景観を醸し出し、建物が建ち並ぶ市街地において、広がりのある豊かな自然景観を形成しています。



応神天皇陵古墳とイチジク畑



日本武尊白鳥陵古墳付近



塚ヶ塚古墳・小口山古墳

b. 景観の課題

古墳を上から眺める機会は限られ、また古墳自体に立ち入ることが制限されているなかで、多くの人々は、古墳をまちなみ景観のアイストップや市街地の中のまとまった緑資源として目にしています。周辺に広がる農地や市街地、隣接する寺社や街道などと古墳とを一体的にとらえ、その背後にある豊かな歴史を感じられる景観資源として育てていくことが重要となります。

そのため、建築物や工作物、屋外広告物の高さや規模、形態や意匠、色彩などが、古墳と周辺環境との一体感を阻害しないよう適切に誘導していくことが求められます。また、フェンスや電柱電線類などによる視覚的な分断をおさえ、水面の広がりや樹林が創り出す古墳特有の広がりのある景観を感じられるような空間づくりが求められます。さらに、古墳そのものについては豊かな生活環境をつくりだす地域資源として適切に保全していくとともに、古墳の歴史性やその景観の特徴、周辺地域と古墳との関係などを多くの人々が理解できるよう、多様な方法での情報発信を行い、より多くの人々が「住みたい、住み続けたい」「訪れたい」と思うまちにしていけることが求められます。

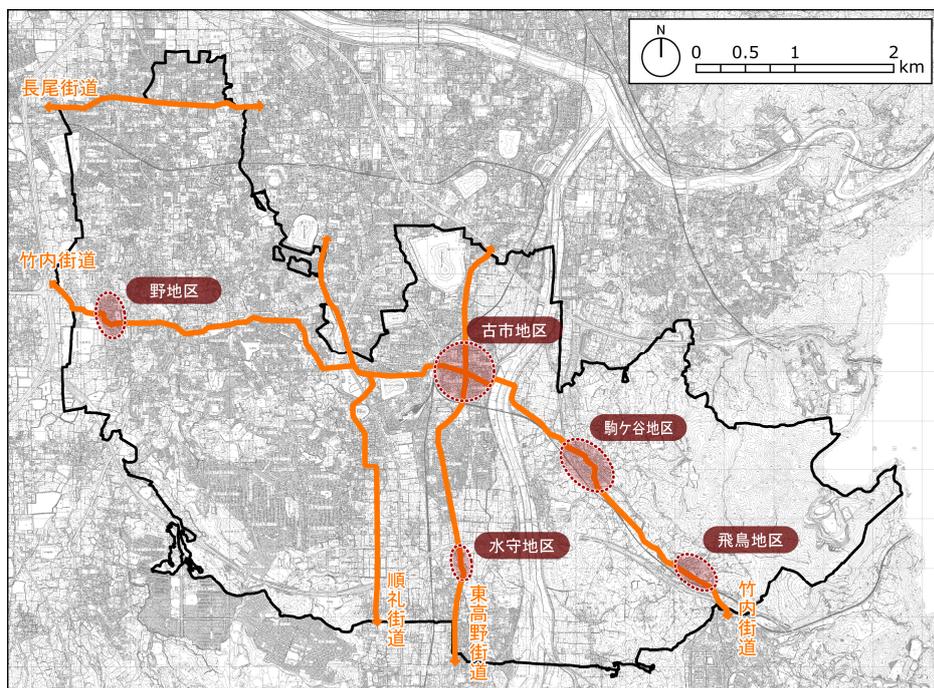
② 旧街道や旧集落地の歴史的な趣のある景観

【歴史的景観】

a. 景観の特徴

本市には、竹内街道、東高野街道、長尾街道、順礼街道の旧街道が通っています。これらの旧街道筋は、今なお歴史的な雰囲気を感じられ、羽曳野市の歴史的景観を特徴づけています。

特に、竹内街道沿いの旧集落にあたる駒ヶ谷地区、飛鳥地区、野地区、東高野街道の水守地区、そして両街道が交わる古市地区は、日本瓦葺の漆喰・板張の外壁による伝統的な様式の町家等の建物も多く残り、歴史的な趣のある景観を形成しています。



野地区のまちなみ



駒ヶ谷地区のまちなみ



水守地区のまちなみ

b. 景観の課題

各街道ともに、歴史的な趣のある景観を残していますが、沿道の町家等は建て替えや改修により、次第に歴史的な雰囲気を失いつつあります。また、駅に近い商業地では、歴史的な趣にふさわしくない突出した色彩やデザインの看板が設置されることによって、景観的な統一感が失われるおそれもあります。歴史的な景観にそぐわない煩雑な印象を与える電柱電線類の整除や景観に配慮した舗装が整備などの空間づくりを進めるとともに、沿道の地域住民との協働による歴史的なまちなみの保存・活用が求められます。

また、街道筋の沿道には、歴史的なまちなみを残す地区のみならず、道標や常夜燈など、街道にまつわる資産が数多くみられます。また、街道筋をルートに含む形でだんじり曳行を現在も行っている地区もみられます。しかし、それらの資産は点在し、旧街道筋としての繋がりや薄れてきている現在、その価値が十分に生かされていないという課題があります。点在している資産のネットワーク化を図り、街道筋としての一連のつながりのある景観を形成し、観光振興等に生かしていくことが求められます。

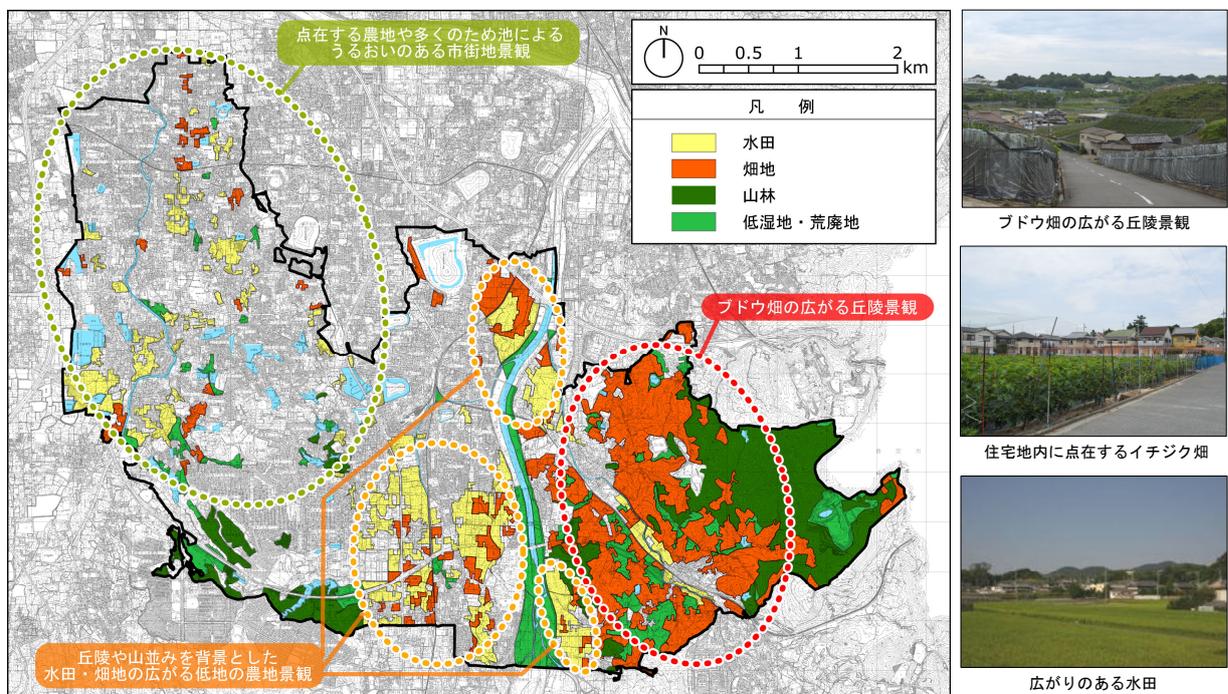
③ ブドウ畑や水田による広がりのある農地景観

【自然的景観】

a. 景観の特徴

大阪府は近畿最大のブドウ産地であり、羽曳野市、柏原市、太子町にまたがる丘陵地にはブドウ園が広がっています。温暖な気候を活かした促成栽培が盛んであり、12月～4月頃のビニルハウスが丘陵地域を銀色に覆い尽くす様子は壮観な景観となります。本市の駒ケ谷の丘陵や南阪奈道路などからは、数百haのブドウ畑が一望できます。

また、市域南東部にはまとまった農地があり、東部の丘陵地や金剛・和泉葛城山系の山並みを背景に、特産のイチジクなどの農産物が栽培される畑地や田園が、緑豊かな広がりのある農地景観を形成しています。市域西部は点在して残る農地や多くのため池が市街地景観にうるおいを与えています。



b. 景観の課題

これまで農業施策として農業基盤整備を実施するとともに、羽曳野市農産物振興推進協議会を設置して、ブドウ、イチジクなどのブランド化などに努めてきました。しかし、全国的な動向と同様に、後継者不足や農業経営に係る各種課題により、今後の農業展望は厳しい状況にあります。また、市内の耕地面積も減少し続けており、羽曳野市固有の広がりのある農地景観を保全していくためにも、農業施策と連携しながら景観形成を図っていくことが求められます。

特に駒ケ谷地区のブドウ畑は、文化的景観※としての価値も高く、周辺の集落や山林等との関係を踏まえながら、保全に向けたより一層の取組が求められます。

市域西部を中心に各所に点在するため池については、水辺空間のもつ自然特性を活かした親しみのもてる景観形成を図ることが求められます。

※「文化的景観」とは、文化財保護法により「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法第2条第1項第5号）」と定義されています。

④ 景観の骨格となる石川や二上山地等の緑豊かな景観

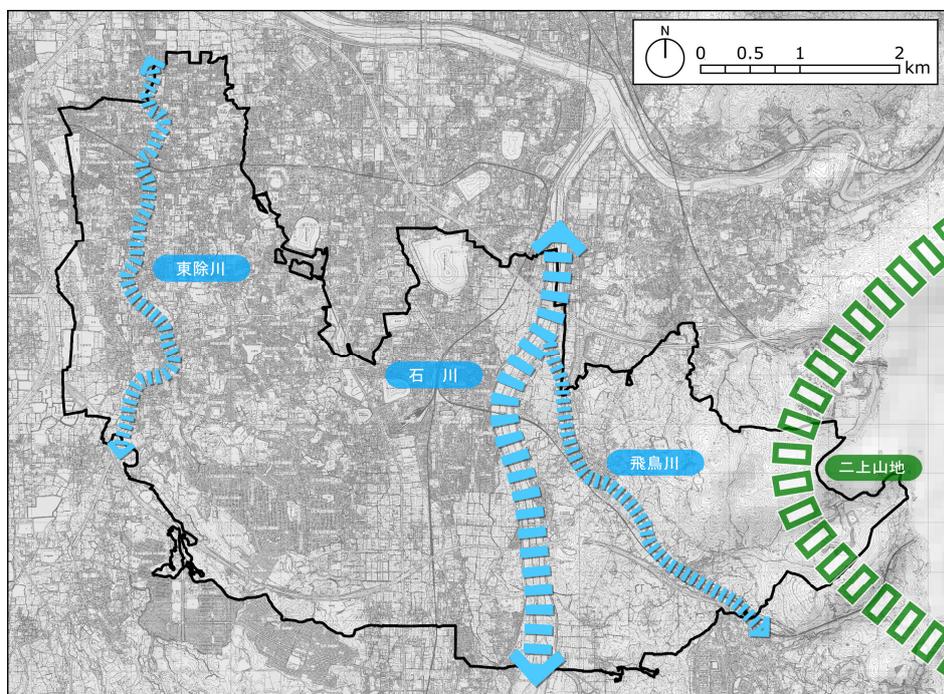
【自然的景観】

a. 景観の特徴

石川の河川敷からは、二上山、葛城山、金剛山が一望できるほか、堤防に咲く桜や草花、沿川の田園などが四季折々に異なった表情を見せます。また、河川敷は石川河川公園として整備され、ウォーキング、ジョギング、サイクリング、パークゴルフ、自然観察など、市民の憩いの空間となっています。

飛鳥川は、東部の山並みや周辺の農地・集落とあいまって、豊かな自然景観を呈しています、

東除川は、周辺に宅地が密集した地域における連続するオープンスペースとして、動植物の貴重な生息環境ともなり、うるおいのある景観を形成しています。



石川



飛鳥川



二上山等の山並み

b. 景観の課題

羽曳野市の景観の骨格となる河川や山地は、大阪府や周辺の市町との連携のもとに、つながりのある良好な自然景観として保全していく必要があります。

河川沿川地域においては、水辺空間のもつ自然特性を活かした親しみのもてる景観形成を図ることが求められます。特に、石川及び飛鳥川は東部の山並みや周辺の農地景観と一体となった景観形成が求められます。そのため、河川沿川地域の建築物等の形態・意匠や色彩等に十分に配慮するとともに、河川側に生垣や庭木を配するなど、河川の豊かな自然との一体性に配慮することが求められます。また、河川空間は、広がりのある眺望をつくり出すことから、建築物の高さや規模にも十分に配慮することが求められます。

また、ブドウ畑が広がる丘陵や背後の山地は、市内各所からの眺望の背景となることから、植生や土地利用を適切に管理していくとともに、丘陵や山裾における建築物等の建築にあたっては、周囲の自然環境と調和した高さや規模、形態・意匠とするとともに、遠景で突出して見える高明度色を避けるなどの色彩の配慮を行い、良好な山並み景観の保全に努めることが求められます。

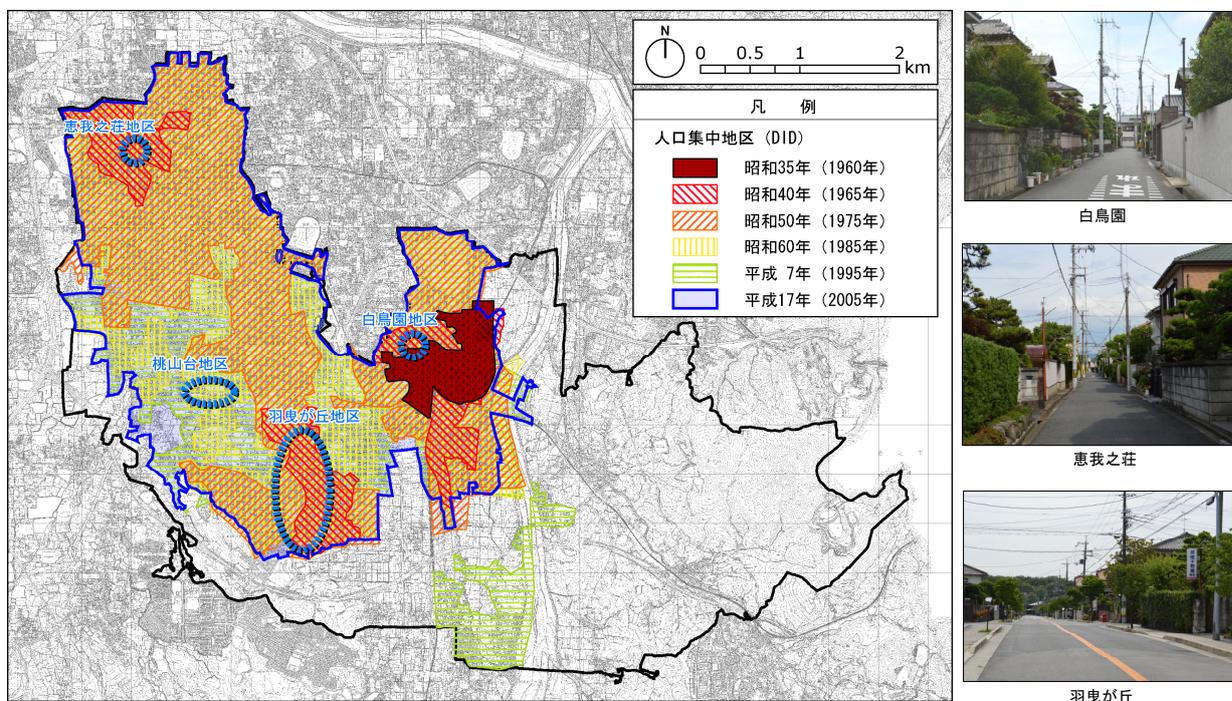
⑤ ベッドタウンとしての緑豊かな住宅市街地の景観

【市街地景観】

a. 景観の特徴

大都市大阪のベッドタウンとして、旧集落や鉄道駅、幹線道路等を中心に市街地が拡大し、また、南西部の丘陵地等を中心に住宅市街地が形成されてきました。

恵我之荘住宅、白鳥園住宅等の大正～昭和初期の計画的住宅地では、緑豊かな落ち着いたまちなみ景観が形成されています。また、昭和40年代ごろの高度経済成長期に開発された羽曳が丘住宅団地や桃山台等の大規模開発地では、比較的敷地規模の大きな住宅により良好な住環境が形成されています。また、近年の民間の小規模な開発や土地区画整理事業等の計画的開発地の中には地区計画制度を利用した住宅地もあり、良好な住環境が形成されています。



b. 景観の課題

高度経済成長期までの計画的住宅地では、住宅の更新や宅地の細分化、生垣の減少等により、これまで良好であったまちなみの統一感が失われてきており、建築物等の形態、仕様、素材、色彩などの統一、生垣の設置など、景観のルールづくりが求められます。

一般住宅地のなかには、老朽木造住宅の集積や細街路の未整備等の問題を抱える密集した市街地もみられ、住環境の整備と合わせ、地域住民と協働したうるおいのある景観形成を図っていくことが求められます。

⑥ 景観の拠点となる駅前や近隣商業地の賑わい景観

【市街地景観】

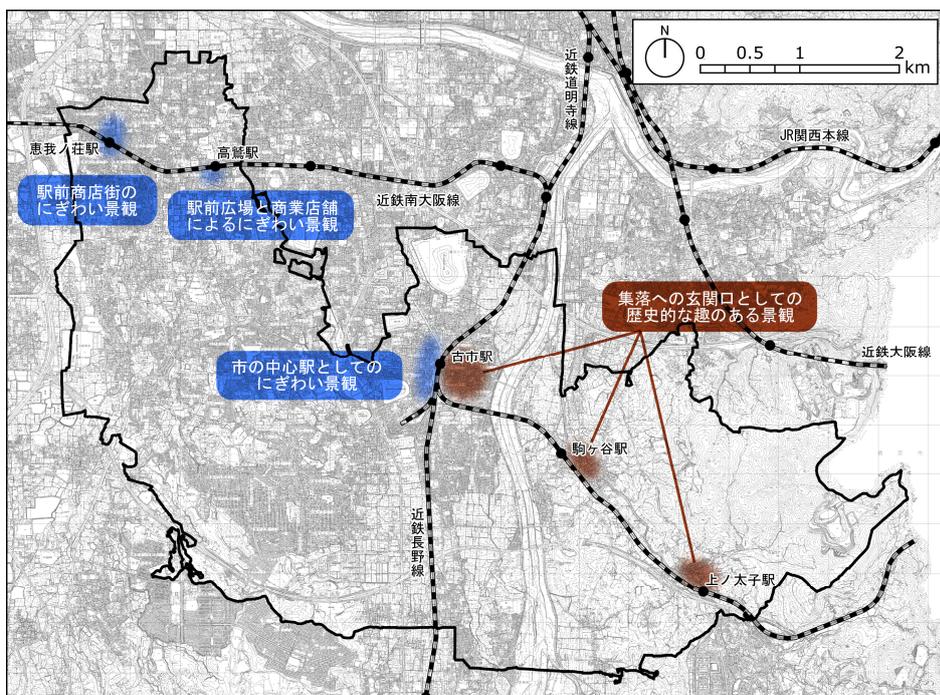
a. 景観の特徴

本市には、近鉄南大阪線古市駅・高鷲駅・恵我ノ荘駅・駒ヶ谷駅・上ノ太子駅があり、それぞれ異なった表情を見せています。

古市駅は市の中心駅であり、西側には賑わいのある商業地の景観が形成され、東側には竹内街道を中心とした歴史的な趣のある景観がみられます。

恵我ノ荘駅では、周辺住宅地の最寄り駅であり、駅周辺には近隣商業地としての駅前商店街が発達し、高鷲駅では、整備された駅前広場を中心に、商業店舗が立地し、いずれも、賑わいのある景観が形成されています。

駒ヶ谷駅・上ノ太子駅は、竹内街道沿いの歴史的な趣のある集落の玄関口となっており、歴史的な趣のある景観がみられます。



古市駅前



恵我ノ荘駅前



上ノ太子駅前

b. 景観の課題

駅前周辺は、賑わいのある反面、建て詰まりによる空間的なゆとりの減少や屋外広告物や放置自転車などによる乱雑な景観となってしまうことが課題となります。また、古市駅東側、駒ヶ谷駅前、上ノ太子駅については、周辺に歴史的なまちなみが残されており、歴史的なつながりが感じられる景観づくりが求められます。

各地域の特徴を反映した、ゆとりのある景観形成を図るとともに、屋外広告物の形状や色彩の統一などの駅前に相応しい景観の形成が求められます。

⑦ 広がりのある眺望や緑の連なりが作り出す変化に富んだ道路景観

【市街地景観】

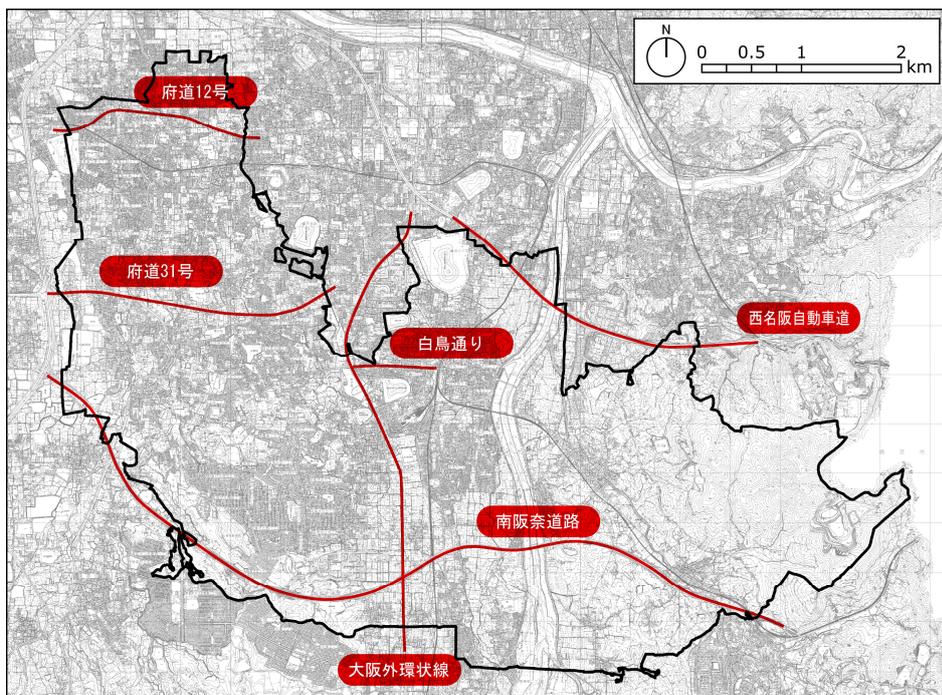
a. 景観の特徴

本市域には、高速道路として西名阪自動車道、南阪奈道路があり、広域的な幹線道路として大阪外環状線（国道 170 号）や府道 12 号、府道 31 号などがあります。また、地域内には郡戸古市線（白鳥通り）などの都市計画道路がネットワークを形成しています。

高速道路では、遠景の山並みが中心となりますが、南阪奈道路からは羽曳野らしいブドウ畑の広がる景観も見られます。

大阪外環状線や府道 12 号、府道 31 号の沿道には、街路樹や周辺の古墳などの緑豊かな道路景観が形成されており、所々で葛城山系の山並みへの眺望が広がっています。

また、古市駅前より西へ延びる郡戸古市線（白鳥通り）は、羽曳野市のシンボルストリートとして整備され、次第に利便性の高い商業業務地としての景観が形成されつつあります。



大阪外環状線



府道 31 号



白鳥通り

b. 景観の課題

広域幹線道路については、大阪府や近隣市町との連携により、一体的な連続性のある景観形成が求められます。特に、大阪外環状線については、古墳の緑や沿道田園風景など周辺の自然的景観との調和した景観づくりや、金剛・和泉葛城山系の山並みへの眺望の確保のため、既存街路樹の適切な維持管理、沿道建築物の意匠や色彩の周辺環境との調和、敷地内の緑化、屋外広告物の大きさや色彩等の制限などが求められます。

また、その他の幹線道路についても、統一された沿道景観を確保するため、沿道建築物や屋外広告物の形態、色彩等に関するルールづくりが求められます。特に、郡戸古市線については、羽曳野市のシンボルストリートとして賑わいのある景観を形成するとともに、周囲の歴史資源との関係を考慮しながら、羽曳野らしい景観を形成していくことが求められます。

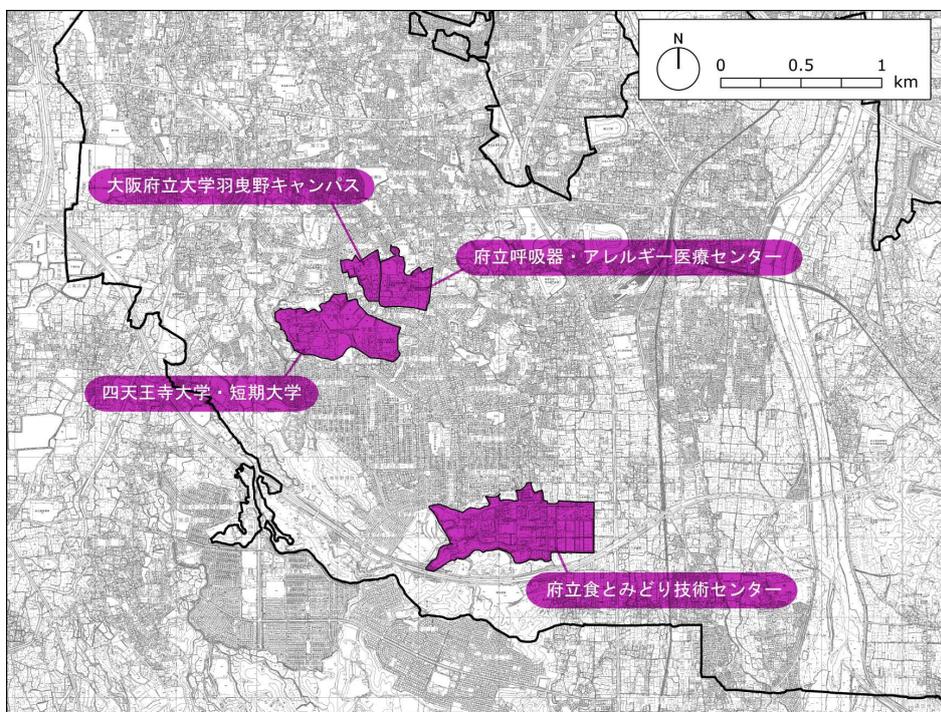
⑧ 豊かな自然に囲まれた学術・文化施設の景観

【市街地景観】

a. 景観の特徴

本市は、大阪のベッドタウンとして発展してきましたが、一方では大学および研究施設等の集積も進んだ地域でもあります。大学は府立大学羽曳野キャンパスおよび四天王寺大学・短期大学、研究施設としては府立食とみどり技術センターがあります。

大阪府立大学の特徴的な校舎や四天王寺大学のさくら並木などが地域の景観を特徴づける要素となっている上、通学する学生たち自体が、賑やかさ・華やかさを生み出す景観要素となっています。また、研究施設である府立食とみどり技術センターは、敷地内に銀杏並木や桜並木などの市民に親しまれた自然的景観を有する施設となっています。



大阪府立大学羽曳野キャンパス



四天王寺大学・短期大学の桜並木



府立食とみどり技術センター

b. 景観の課題

桜並木や銀杏並木など市民に親しまれた景観要素については、市民や大学・研究施設等の関係機関と連携して、景観要素を維持・保全していくとともに、学術・文化施設が集積しているという特徴を活かし、大学の学生等と市民が協働した景観づくりを進めます。